

学力向上 今後の取組

令和8年9月 竹田市教育委員会

1. 成果 (1) 学力の向上 全国平均以上の教科割合 R5 43% → R6 36% → R7 62% → R8 75% (2) 各学校の取組の進展 調査結果を校内で分析し、課題に応じた補充・定着・授業改善の取組を具体化 (3) 各教科部会の取組の進展 問題別・経年分析を行い、授業で気をつけることまで具体化して共有	2. 課題 (1) 「書く・話す」から「考えを深める」へ 必要な情報を選び、既習事項とつなぎ、根拠をもって説明する力の育成 (2) 全国調査で求められる力への対応 初見の文章・資料・図表等から必要な情報を読み取り、活用する力の育成 (3) 個人差への対応 つまずきの早期把握と、必要に応じた既習事項へのさかのぼり指導・個別支援
---	--

【具体的な取組】

【組織的な取組】 (竹田市) 現行の学力向上プランを継続し、検証・改善 各校・各部会の好事例を共有し、取組を支援 (学 校) <u>重点課題を1～2点に絞り</u>、全教職員で共通 実践。単元テスト等で検証し、次学年へ引き 継ぐ (部 会) 課題問題で必要な思考過程を分析し、授業の 手立てに落とし込む。成果のある実践を共有	【授業改善】 (共 通) 「何を問われているか」「どの情報を使う か」「なぜそう考えるか」を意識した授業 (授 業) 答えだけでなく、根拠・理由・方法まで説明 する場面を日常化 (検 証) 「書いた・話した」だけでなく、考えが深ま ったかという視点で授業を見合う (重 点) 数学、英語等の継続課題を教科部会で共有 し、日常の授業で重点的に改善
--	---

■結果の概要（正答率の比較）

正答率		全体	観点別			領域別						回答形式
			知識技能	思考・判断	態度	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方	我が国の言語文化	話す・聞く	書く	読む	記述式
R8	竹田市	60.0	59.8	60.7		65.5	48.2	-	66.1	40.5	73.0	58.6
	全国	60.9	62.0	60.1		66.8	52.3	-	65.8	45.7	65.9	54.9
	差	-0.9	-2.2	0.6		-1.3	-4.1		0.3	-5.2	7.1	3.7
R7	竹田市	67.0	72.5	65.0	-	72.9	64.2	79.8	67.0	69.7	60.1	66.1
	全国	66.8	74.5	63.8	-	76.9	63.1	81.2	66.3	69.5	57.5	58.8
	差	0.2	-2.0	1.2		-4.0	1.1	-1.4	0.7	0.2	2.6	7.3
R6	竹田市	66.0	66.9	64.7	-	59.9	84.0	78.2	56.0	68.1	71.1	69.3
	全国	67.7	69.8	66.0	-	64.4	86.9	74.6	59.8	68.4	70.7	64.6
	差	-1.7	-2.9	-1.3		-4.5	-2.9	3.6	-3.8	-0.3	0.4	4.7
R5	竹田市	69.0	69.0	68.8	-	72.5	60.1	-	79.2	29.8	71.5	53.2
	全国	67.2	68.9	65.5	-	71.2	63.4	-	72.6	26.7	71.2	51.1
	差	1.8	0.1	3.3		1.3	-3.3		6.6	3.1	0.3	2.1
R4	竹田市	64.0	71.7	58.8	-	69.2		83.8	63.1	51.5	60.4	49.7
	全国	65.6	70.5	62.0	-	69.0		77.9	66.2	48.5	66.6	51.3
	差	-1.6	1.2	-3.2		0.2	0.0	5.9	-3.1	3.0	-6.2	-1.6

■ つまづきが見られた問題

		正答率		
		市	全国	差
1二(3)	〈音声〉の下線部の工夫の効果として適切なものを選択する	60.4	65.2	-4.8
2二	【花山さんの文章の一部】の下線部①に続く文として適切なものを選択する	43.2	48.9	-5.7
2四	【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く	27.9	33.5	-5.6

■ 課題

- 「思考・判断・表現」において全国を若干上回っているものの、「知識・技能」においては全国の正答率を2.2%、県の正答率を4.7%下回っている。
- 領域別では、「読むこと」において全国を7.1%大幅に上回っているが、「書くこと」において全国を5.2%、県を4.9%下回っており、「情報の扱い方に関する事項」でも県を5.4%、全国を4.1%下回っている。
- 問題形式においては、記述式で全国を3.7%上回っている反面、短答式において県の正答率を4.4%下回っている。
- 特に全国との差が大きく正答率の低さが目立ったのは、文章の構成において前後のつながりを考えて適切な文を選択する問題や、集めた情報から必要な内容を抜き出して考えが伝わるように書く問題であり、それぞれ全国を5.6～5.7%下回っている。文章の構成において「考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係を理解する」ことや、「目的や意図に応じて、集めた情報から必要なものを記述に生かす」ことに課題が見られる。

■ 授業で気をつけること

- 複数の資料や情報の中から、自身の考え（あるいは文章全体の目的）に沿った情報を的確に選び出し、文脈に合わせて適切に表現する力が十分に定着していない可能性が考えられる。説明的文章を読み取る際に、筆者の書き方の工夫に注目させ、目的や条件に合わせて書く活動を適宜取り入れる必要がある。
- 「書くこと」や「情報の扱い方」において、授業の中で説明文などを扱う際、段落相互の関係（理由・具体例・結論など）をワークシートや図を用いて視覚的に整理する活動を取り入れる。また、書いた文章が、自分の考えを支える根拠や事例が適切につながっているかを確認め合う時間を設けることも効果的である。
- 単元において「話す・聞く」や動画制作、スピーチなどを扱う際には、単に内容を伝えるだけでなく、「なぜその表現（強調や反復など）を使うのか」、「それによって聞き手にどのような効果を与えるか」という視点を常に持たせ、目的意識をもった授業展開をしていく必要がある。

■結果の概要（正答率の比較）

正答率		正答率	観点別			領域別					回答形式
		全体	知識 技能	思考 判断	態度	数と 計算	図形	測定	変化と 関係	データ の活用	記述式
R8	竹田市	56.0	59.3	48.0		61.3	56.8	64.9	36.3	49.5	52.6
	全国	56.4	60.1	45.4		61.1	55.3	78.1	41.1	48.6	48.5
	差	-0.4	-0.8	2.6		0.2	1.5	-13.2	-4.8	0.9	4.1
R7	竹田市	55.0	62.5	44.3	-	60.1	52.3	51.4	51.1	60.0	33.5
	全国	58.0	65.5	48.3	-	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6	34.9
	差	-3.0	-3.0	-4.0		-2.2	-3.9	-3.4	-6.4	-2.6	-1.4
R6	竹田市	60.0	69.1	48.7	-	63.0	62.6		46.5	61.1	46.6
	全国	63.4	72.8	51.4	-	66.0	66.3		51.7	61.8	51.0
	差	-3.4	-3.7	-2.7		-3.0	-3.7		-5.2	-0.7	-4.4
R5	竹田市	59.0	62.7	53.4	-	61.4	45.0	-	68.0	63.5	43.8
	全国	62.5	67.2	58.5	-	67.3	48.2	-	70.9	65.5	47.3
	差	-3.5	-4.5	-5.1		-5.9	-3.2		-2.9	-2.0	-3.5
R4	竹田市	61.0	67.4	53.8	-	69.5	60.8		48.3	66.7	56.5
	全国	63.2	68.2	56.7	-	69.8	64.0		51.3	68.7	60.2
	差	-2.2	-0.8	-2.9		-0.3	-3.2	0.0	-3.0	-2.0	-3.7

■ つまづきが見られた問題

		正答率		
		市	全国	差
2（4）	赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ	25.2	34.2	-9.0
4（2）	昔遊びの計画を見て、全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間は何分間か書く	64.9	78.1	-13.2
4（3）	二次元表の中から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く	13.5	17.9	-4.4

■ 課題

全体的に全国平均とほぼ同じであるが、正答数の分布は二山型となっている。特に正答数が3割以下の児童が約19%見られ、学力の二極化が課題である。

割合や数量の関係を基に基準量を求める問題や、複数の条件を整理して時間を求める問題の正答率が全国平均を下回っており、数量の関係を正しく捉え、問題場面を式に表す力が十分ではない。

表やグラフなどの資料から必要な情報を読み取り、条件に合う数量を求めたり、その根拠を説明したりする問題の正答率が低く、資料を正確に読み取り、必要な情報を整理して活用する力に課題が見られる。

■ 授業で気をつけること

割合や数量の関係を正しく捉えられるよう、図や数直線などを使って考える活動を取り入れ、基礎的な内容の定着を図る。

表やグラフから必要な情報を読み取る活動を充実させるとともに、自分の考えを理由と合わせて説明する場を設け、思考力・判断力・表現力を育てる。

単元ごとに学習内容を振り返る時間を設け、計算や既習事項を活用する問題に繰り返し取り組ませることで、基礎的な知識・技能の定着を図る。

■結果の概要（正答率の比較）

正答率		全体	知識技能			領域別						回答形式
			知技	思判表	主体的	言葉特徴 や使い方	情報の 扱い方	我が国の 言語文化	話す 聞く	書く	読む	記述式
R8	竹田市	67.0	65.5	68.3		63.7	74.5		66.7	72.1	66.0	52.0
	全国	63.9	64.2	63.7		63.0	70.4		63.9	67.4	59.7	45.5
	差	3.1	1.3	4.6		0.7	4.1	0.0	2.8	4.7	6.3	6.5
R7	竹田市	56.0	48.7	56.8	-	48.7			57.5	53.4	61.2	28.7
	全国	54.3	48.1	55.3		48.1			53.2	52.8	62.3	25.3
	差	1.7	0.6	1.5		0.6	0.0	0.0	4.3	0.6	-1.1	3.4
R6	竹田市	57.0	59.7	54.7		57.4	54.8	76.5	58.6	65.2	46.5	45.8
	全国	58.1	62.0	55.4		59.2	59.6	75.6	58.8	65.3	47.9	45.5
	差	-1.1	-2.3	-0.7		-1.8	-4.8	0.9	-0.2	-0.1	-1.4	0.3
R5	竹田市	68.0	68.7	67.8	-	59.7	64.7	77.3	83.2	60.9	59.7	68.1
	全国	69.8	69.4	69.7	-	67.5	63.4	74.7	82.2	63.2	63.7	68.0
	差	-1.8	-0.7	-1.9		-7.8	1.3	2.6	1.0	-2.3	-4.0	0.1
R4	竹田市	70.0	69.3	61.9		72.3	39.0	73.5	66.2	39.0	66.9	55.1
	全国	69.0	69.0	62.3		72.2	46.5	70.2	63.9	46.5	67.9	57.4
	差	1.0	0.3	-0.4	0.0	0.1	-7.5	3.3	2.3	-7.5	-1.0	-2.3

■ つまづきが見られた問題

		正答率		
		市	全国	差
1ー	「可能の意味」を含んでいるものとして適切なものを選択する問題	81.6	84.3	-2.7
1二	「投げられる」を説明したものとして適切なものを選択する問題	65.3	70.2	-4.9

■ 課題

- ▲助動詞の働きについて理解すること。
- ▲単語の類別について理解すること。

■ 授業で気をつけること

- 「言葉特徴や使い方」について
 - ・授業のはじめや終わりに簡単な問題を解かせる。
 - ・単元テストに言語事項の問題を入れ、定着度を確認し個別指導をする。

■結果の概要（正答率の比較）

正答率		正答率	観点別				領域別				回答形式
		全体	知技	思判表	主体的	数と式	図形	関数	データの活用	記述式	
R8	竹田市	52.0	58.3	32.1		65.1	36.0	49.3	52.8	32.1	
	全国	57.0	63.0	39.1		67.8	48.7	54.8	53.5	39.1	
	差	-5.0	-4.7	-7.0		-2.7	-12.7	-5.5	-0.7	-7.0	
R7	竹田市	46.0	52.2	36.2	-	39.3	42.6	49.3	57.4	37.9	
	全国	48.3	54.4	39.1	-	43.5	46.5	48.2	58.6	39.6	
	差	-2.3	-2.2	-2.9		-4.2	-3.9	1.1	-1.2	-1.7	
R6	竹田市	48.0	59.7	23.8	-	47.0	35.1	57.4	51.5	23.8	
	全国	52.5	63.1	29.3	-	51.1	40.3	60.7	55.5	29.3	
	差	-4.5	-3.4	-5.5		-4.1	-5.2	-3.3	-4.0	-5.5	
R5	竹田市	45.0	50.0	34.6	-	55.1	24.9	49.4	41.7	34.6	
	全国	51.0	55.7	41.6	-	63.0	33.2	51.2	48.5	41.6	
	差	-6.0	-5.7	-7.0		-7.9	-8.3	-1.8	-6.8	-7.0	
R4	竹田市	53.0				61.3	43.4	41.9	61.5	37.9	
	全国	51.4				57.4	43.6	43.6	57.1	36.2	
	差	1.6	0.0	0.0	0.0	3.9	-0.2	-1.7	4.4	1.7	

■ つまづきが見られた問題

		正答率		
		市	全国	差
3	四角形PQRSにおいて、PS平行QRを示すための根拠となる二つの角を書く	29.6	49.1	-19.5
7(1)	動画の時間とデータ量の関係を表すグラフにおいて、点Cの座標を書く	63.3	75.2	-11.9
8(2)	図1において、AB=AP、OB=OPならば∠AOB=∠AOPであることを、三角形の合同を基にして証明する	31.6	46.1	-14.5

■ 課題

- 生徒の実態と正答率とを照らし合わせて考察すると、生徒の実力が十分発揮できていないと感じる。問題文を読み取らせることであったり、問題のポイントを掴ませることであったり、解答の記述の仕方であったりと、こういった問題へ取り組ませる指導がまだ十分でないと思える。
- 根拠を答える問題やデータや状況を基に答えを導き出す問題が弱い。受験や進学に関して顕著に表れない分野でも継続的・段階的な指導を続けていかなければならない。証明や公式、計算ルールなどにおいても、結果だけを重視せず、そこに至るまでの思考や過程を大事にすべきである。
- 子どもたちの「わかりたい」という前向きな姿勢を尊重し、個に応じた指導を丁寧にしながら、少しずつ繰り返し知識や技能を積み重ねていく必要がある。

■ 授業で気をつけること

- 根拠を基にした発言や教え合いをする機会を多く取り入れ、アウトプットをたくさんすることで知識・技術の定着をはかる。
- 日々の課題に丁寧に取り組みせ、添削指導等をする中で、個に応じた指導をしていく。また、課題の内容についても、現在学習している内容や既習事項をバランスよく出題するよう心掛ける。特に関数・図形に関する問題に重点を置く。
- 2年次、1年次の各単元での課題解決学習のときに全国学力調査の過去問を適切に取り入れ、思考や表現の鍛錬を積んでいく。

■結果の概要（正答率の比較）

正答率	全体	観点別			領域別			回答形式	
		知技	思判表	主体的	聞くこと	読むこと	書くこと	記述式	
R8	竹田市								
	全国								
	差	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0
R7	竹田市								
	全国								
	差								
R6	竹田市								
	全国								
	差								
R5	竹田市	36.0	41.4	29.5	—	50.8	41.9	10.4	7.6
	全国	45.6	51.5	38.8	—	58.4	51.2	23.4	13.5
	差	-9.6	-10.1	-9.3		-7.6	-9.3	-13.0	-5.9
R4	竹田市								
	全国								
	差	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

■ つまづきが見られた問題

		正答率		
		市	全国	差
9（1）①	「書く」：与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	13.4	40.4	-27.0
9（2）	「書く」：メールの英文を依頼する表現に書き換える	11.8	29.0	-17.2
8（1）	「読む」要点：ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	41.2	56.1	-14.9

■ 課題

- ・音声理解ができていない。（聴き取れない、音として読めない）⇒場面や状況が想像できない。
- ・基本的な語彙や文法が定着していない。
- ・メール文、対話文等、まとまりのある英文の概要や要点が読み取れていない。目的に応じた読み方ができない。
- ・与えられた情報に基づき、自分の考えとその理由を書くことができない。

※経験不足

■ 授業で気をつけること

- ・「つきたい力」を意識した、単元構想・1時間の授業構想を行う。
 - ・各単元での「つきたい力」に添った指導と活動を、その単元内で繰り返し行う。
 - ・「聞く」「読む」「話す」「書く」活動のメリハリをつけた授業展開を行う。
 - ・指導⇒活動⇒指導⇒活動を繰り返し、使わせながら、文法や語彙を身に付けさせる。
 - ・学習指導要領および解説に添って、コミュニケーションの目的や場面・状況を意識した指導を行い、コミュニケーション活動を仕組む。
- ・英語教師は、令和5年および令和2年全国学力学習状況調査の過去問題を令和5年9月の研修会までに必ず解く。
- ・英語教師は中3生に対し、宿題や単元末テスト等で英語検定試験の問題（4級・3級・準2級）に取り組ませる。

令和8年度 児童生徒質問紙調査に基づく竹田市全体の考察（小・中学校）

◎全国平均との差

【小学校】

強み（全国平均との差が大きい項目）	差	全国平均との差が小さい項目	差
昼休みや放課後に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室（電子図書館を含む）に週に1回以上行きますか	42.9	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用しました	-12.7
国語の勉強は得意ですか	21.2	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上、勉強をしますか	-9.6
国語の勉強は好きですか	19.7	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり3時間以上、勉強をしますか	-6.0
5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	16.5	将来の夢や目標を持っていますか	-4.8
分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	16.0	普段（月曜日から金曜日）、1日当たり3時間以上、スマートフォン等でSNSや動画視聴などをしますか	-4.6

【中学校】

強み（全国平均との差が大きい項目）	差	全国平均との差が小さい項目	差
1、2年生のときに受けた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれましたか	18.8	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用しましたか	-32.6
1、2年生のときに受けた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれましたか	13.9	1、2年生のときに受けた授業では、キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って英語を書く活動をどれくらい行いましたか	-13.3
昼休みや放課後に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室（電子図書館を含む）に週に1回以上行きますか	13.1	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ができると思いますか	-9.3
国語の勉強は好きですか	11.1	1、2年生のときに受けた授業では、文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができましたか	-8.2
国語の授業の内容はよく分かりますか	11.0	数学の勉強は好きですか	-8.1

令和8年度の児童生徒質問紙調査では、小学校において、学校図書館・学校図書室の利用が全国平均を大きく上回るとともに、国語・算数の学習に対する肯定感や、学習の進め方に関する項目に強みが見られた。国語では「得意」+21.2ポイント、「好き」+19.7ポイント、「授業の内容はよく分かる」+14.9ポイントである。算数でも「どのように考えたのかを説明する活動」+15.9ポイント、「好き」+13.9ポイント、「授業の内容はよく分かる」+11.5ポイント、「分からないときにあきらめずにいろいろな方法を考える」+11.8ポイントとなっている。さらに、「自分で学び方を考え工夫する」+16.0ポイント、「課題の解決に向けて自分から取り組む」+15.9ポイント、「学んだことを生かして自分の考えをまとめる」+16.5ポイント、「振り返って次の学習につなげる」+13.4ポイントであり、学習者としての主体性や自己調整に関する回答が一貫して高い。

一方、小学校では、授業におけるICT機器の使用頻度が-12.7ポイント、平日の学校外学習2時間以上が-9.6ポイント、休日の学習3時間以上が-6.0ポイントとなっている。ただし、これらは使用時間・学習時間の長さを示す指標であり、その差をそのまま学力上の課題や原因と捉えることは適切ではない。また、スマートフォン等を1日3時間以上利用する割合も全国より4.6ポイント低く、全国平均との差の符号と教育的な望ましさが一致しない項目もある。

中学校では、国語の授業における教員からの具体的なフィードバックが引き続き大きな強みである。「良いところや成長を伝えてくれる」は+18.8ポイント、「改善すべき点と改善方法を教えてくれる」は+13.9ポイントであり、国語の「好き」+11.1ポイント、「授業の内容はよく分かる」+11.0ポイントと合わせて、教員の関わりと学習への肯定感が結び付いていることがうかがえる。また、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」は+10.3ポイントで、令和7年度の-5.8ポイントから大きく改善した。将来の夢や目標も-1.2ポイントまで差が縮小しており、社会や将来とのつながりに関する意識には改善が見られる。

その一方で、中学校では数学に関する回答に課題が集中している。「数学の勉強は得意」-4.7ポイント、「好き」-8.1ポイント、「授業の内容はよく分かる」-6.9ポイント、「分からないときにあきらめずにいろいろな方法を考える」-6.4ポイント、「文字式を用いた説明や図形の証明を読んで理解する」-8.2ポイントである。一方、「どのように考えたのかについて説明する活動」は+9.0ポイントである。さらに学校質問紙では、「根拠を明確にして筋道を立てて説明させる授業」が全国を大きく下回っている。両者を併せると、説明する機会そのものは一定程度経験しているものの、根拠の明確さや筋道、説明を読み取る力まで十分に高め切れていない可能性がある。今後は説明活動の回数を増やすだけでなく、既習事項とのつながりを明確にし、「なぜその考え方になるのか」を理解し、根拠を用いて説明し直す学習過程を中学2年生段階から重点化する必要がある。

ICTについては、中学校で1、2年生時の授業における使用頻度が-32.6ポイント、ICT機器で文章を作成できるという自己評価が-9.3ポイントである。一方、情報を整理する力は全国と同程度、プレゼンテーション作成は-2.5ポイント、情報収集は-5.2ポイントであり、ICTに関する力が一様に低いわけではない。したがって、端末を使う頻度そのものを目標にするのではなく、文章化、情報収集、整理、表現など、学習場面ごとに必要な力を見極めて活用機会を設けることが重要である。

以上より、令和8年度は、小学校では国語・算数を中心とした学習への肯定感、主体的・自己調整的に学力が強みとして表れ、中学校では国語の具体的なフィードバックや社会参画意識の改善が見られた。

令和8年度 学校質問紙調査に基づく竹田市全体の考察（小・中学校）

◎全国平均との差（肯定回答率）

【小学校】

全国平均との差が大きい	差	全国平均より低い項目	差
教職員と児童がやりとりする場面での ICT 機器活用（週3回以上）	22.0	合理的配慮（3）ルール・慣行の柔軟な変更（学習内容に関わるものを除く）	-44.6
教員が授業で問題を抱えた場合に、率先して話し合う取組（月数回以上）	20.5	合理的配慮（1）人的支援の配慮	-44.4
近視予防に関する屋外活動・近距離作業への配慮事項の指導	19.5	合理的配慮（4）学習内容の柔軟な変更や調整	-40.2
児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いている	16.1	合理的配慮（2）情報の取得・利用・意思疎通への配慮	-39.6
児童は、礼儀正しい	14.6	特別な支援を要する児童への ICT による学習活動等の支援（週3回以上）	-35.9

【中学校】

全国平均との差が大きい	差	全国平均より低い項目	差
調査対象学年の生徒に対する職場体験活動	38.3	自分で調べる場面での ICT 機器活用（週3回以上）	-46.2
教員が授業で問題を抱えた場合に、率先して話し合う取組（月数回以上）	34.8	数学：根拠を明確にして筋道を立てて説明させる授業	-45.7
教職員にとって、働きやすく居心地のよい学校施設	21.2	英語：スピーチ・プレゼン等、まとまった内容を発表する活動	-37.6
教員が学級の問題を抱えた場合に、ともに問題解決に当たる取組（月数回以上）	21.0	合理的配慮（3）ルール・慣行の柔軟な変更（学習内容に関わるものを除く）	-33.9
生徒にとって、学びや生活がしやすく居心地のよい学校施設	18.8	ICT を活用して各教科等の見方・考え方を働かせる学習指導	-33.3

※ 小学校の強み5位は「礼儀正しい」と「自分で調べる場面での ICT 活用」が同率（+14.6）。また、合理的配慮・特別支援 ICT の一部項目には「該当する児童生徒がいない」の選択肢があり、全国平均との差は在籍状況の影響も受けるため解釈に留意する。

令和8年度の学校質問紙調査結果からは、小・中学校に共通して、教員同士が授業や学級の課題を共有し、組織的に対応する体制が竹田市の強みとして表れている。特に、**教員が授業で問題を抱えた際に話し合う取組**は、小学校で全国平均を 20.5 ポイント、中学校で 34.8 ポイント上回った。令和7年度も同項目は小学校+10.9 ポイント、中学校+35.1 ポイントであり、中学校では高い水準を維持し、小学校ではさらに差が拡大している。

小学校では、**児童の落ち着いた学習態度**が引き続き強みであり、「授業中の私語が少なく、落ち着いている」は令和7年度の+14.1 ポイントから令和8年度は+16.1 ポイントとなった。また、昨年度最大の課題であった「**資料や文章、話の組立てなどを工夫して発言・発表する**」は、-30.4 ポイントから+11.1 ポイントへ大きく改善した。さらに、小中の教育課程接続は-25.3 ポイントから-7.0 ポイント、**自分で学ぶ内容を決め計画を立てる活動**は-24.1 ポイントから-14.4 ポイントとなり、依然課題を残しつつも改善が見られる。

一方、小学校のワースト項目には合理的配慮や特別な支援を要する児童への ICT 活用が並んだ。ただし、これらは「該当する児童がいない」という回答を含むため、単純な全国平均との差だけで支援が不十分と判断することはできない。学力向上との関連でより注目すべきなのは、「関連する既習事項を振り返り、知識を総合的に関連付ける学習活動」が-21.7 ポイント、**「各教科等で身に付けたことを様々な課題の解決に生かす機会」**が-17.0 ポイントである。既習内容をつなぎ、未知の課題に活用する授業づくりは、今後の算数を中心とした授業改善の重点となる。

中学校では、教員間の協働に加え、**学校施設の居心地や働きやすさ、職場体験活動**などが全国平均を大きく上回った。一方、授業・ICT に関する項目では昨年度からの変化が大きい。「**自分で調べる場面での ICT 活用**」は令和7年度-21.2 ポイントから令和8年度-46.2 ポイントへ低下し、「**児童生徒同士の ICT によるやりとり**」は+60.7 ポイントから-11.1 ポイントへ転じた。また、**小中の教育課程接続**は+28.3 ポイントから-22.0 ポイントとなっており、学校間・年度間で取組の継続性に差が生じていることがうかがえる。

特に学力向上の観点から重視したいのは数学である。「**問題の答えを求めるだけでなく、根拠を明確にして筋道を立てて説明させる授業**」は、令和7年度には全国平均を 4.4 ポイント上回っていたが、令和8年度は 50.0%にとどまり、全国 95.7%に対して-45.7 ポイントとなった。全国学力・学習状況調査で求められる説明・根拠・筋道と直接関係する項目であり、中学2年生段階から日常の数学授業で説明する活動を意図的に位置付ける必要がある。

その一方で、中学校では、**不登校生徒への ICT を活用した学習支援**が令和7年度-39.3 ポイントから令和8年度+12.1 ポイントへ、**個々の理解度・進度に応じた ICT 活用**も-16.2 ポイントから+9.2 ポイントへ改善している。したがって、ICT 活用全体が弱いのではなく、用途によって成果と課題が大きく分かれていると捉える必要がある。今後は、小学校では既習事項の関連付けと活用、中学校では数学的な説明と情報収集・表現の授業場面に重点を置き、既に強みとなっている教員間の協働を授業改善に結び付けることが重要である。

（参考）昨年度からの主な変化

校種	項目	R7 差	R8 差
小	発言・発表の工夫	-30.4	+11.1
小	自分で学ぶ内容を決め、計画を立てる	-24.1	-14.4
小	小中の教育課程接続	-25.3	-7.0
中	数学で根拠を明確に筋道を立てて説明	+4.4	-45.7
中	自分で調べる場面での ICT 活用	-21.2	-46.2
中	不登校生徒への ICT 学習支援	-39.3	+12.1

※ 令和7年度・令和8年度全国学力・学習状況調査「学校質問」竹田市集計値に基づく。差は竹田市ー全国（ポイント）。